

2022年6月発行 VOL.115

なぴあ

公益財団法人長崎県国際交流協会 広報誌



令和3年度地域住民国際理解講座

「韓国伝統組ひも体験講座（全2回）ブローチをつくろう！」を開催しました！

長崎県国際交流員の崔^{チェ}ダウンさんを講師にお迎えし、2022年3月11日（金）・3月18日（金）の2週連続で講座を開催しました。参加者は「カラッチメドゥプ」からお花の形をしたブローチを作りました。

「カラッチメドゥプ」は、日本語で「指輪（カラッチ）の形をした組ひも（メドゥプ）」という意味で、その原型は（組ひもで作られた）丸い玉のような形をしています。このカラッチメドゥプの中心を広げて作ると指輪のような形になり、全体を外側へ広げて作ると今回作ったブローチのようなお花の形になります。

韓国組ひもは、昔は日常生活の中で何かを「結ぶ」ために使われていましたが、次第に組ひもを使って飾り物を作るようになりました。組ひもで飾り物を作るようになってからは、糸を染めるようになり、組ひもの「色」も豊かになっていきました。朝鮮時代には、組ひもが幅広く愛用されるようになり、主に家具や室内の置物、楽器や武器などを組ひもで飾るようになりました。また、昔のハンボク（韓国の伝統的な民族衣装）にはポケットがなかったため、小さなポーチを組ひもで繋げて持ち歩けるようにしました。組ひもで装飾すると「品格が上がる」、組ひもにはそのような役割もあります。

この講座では、ブローチづくりを通して、韓国組ひもの歴史や日中韓の組ひもの違いを学んだり、クイズを通して、韓国文化について理解を深めました。参加者からは「出来上がりもよくて満足です」「組ひもについて、さらに深く知り、作ってみたい」とのお声をいただきました！

（公財）長崎県国際交流協会

〒850-8062 長崎県長崎市出島町2番11号

TEL 095-823-3931/095-823-3929

FAX 095-822-1551/Eメール nia@nia.or.jp



協会公式 HP



Facebook



比べてみよう！日本とスリランカ



今回、お話ししてくださったのは、^{ニサンサラ マドゥワンティ ヘッティ アラッチ}Nisansala Maduwanthi Hetti Arachchi さん（以下、マドゥさん）。マドゥさんは、日本人のご主人と結婚して1年半、現在はお仕事をしながら長崎市内で暮らしています。スリランカの国民性や食事、言葉について教えていただきました。日本との違いや似ているところについて考えながら、楽しく世界の異文化に触れてみましょう！



マドゥさん

「අයුබෝධන්. (アユボワン)」。これは、シンハラ語の挨拶で「こんにちは」という意味です。「こんにちは」以外にも、「ようこそ」や「あなたが長生きできますように」という別の意味もあるんですよ。皆さん、アユボワン！スリランカについてお伝えします。



スリランカ人って、どんな人？

スリランカ人は絆が強く、その幅が広いと思います。例えば、家族や親戚（親戚の家族）、友人や友人の家族とも距離がとても近いです。病気になれば、毎日のように誰かから電話がかかってきては「これを試してみて！」とよく効く薬をすすめてくれます。誰かが困っていれば、何とかして助けてあげる、スリランカ人にはそんな温かい国民性があると思います。

また、家族には何でも話します。そして、私が母に話したことは、すぐに家族内に広がり共有されます（笑）。若い子や思春期の男の子であっても、家族とはずっと仲が良く、親のことを大切にします。ちなみに、スリランカでは、年をとった自分の親をケアハウスなどの施設に入れることをあまり良く思いません。見放してしまうようなイメージがあるのです。スリランカでは、最期まで住み慣れた家で、家族と一緒に過ごします。



スリランカの食事

スリランカでは、知人がフラッと訪ねて来たり、道でばったり友人に会うと「ご飯食べていかない？」と声をかけます。誰がいつ来ても、食事でもてなすことができるように、いつもたくさんの料理を作ります。また、作った料理は動物たちにも与えます。（ペットではない）犬や猫には、家族の食事が終わったあとで、鳥やリスには、家族が食事をする前に少量を器に入れて分け与えます。リスもスリランカカレーを食べるんです！右の写真は、それぞれ、水菜・鯖・鶏肉・レンズ豆・オクラを使ったスリランカカレーです。全て手で混ぜて食べると、とても美味しいですよ！



マドゥさん手作りのスリランカカレー



“スリランカ”を表す言葉

スリランカを表す言葉として「ピン（＝徳を積む）」や「ダーナヤ（＝誰かに徳を与える）」という言葉があります。スリランカ人は、小さい頃から毎週日曜日にお寺で仏教の勉強をします。そこでは「今良いことをすれば、来世で良いことがある。悪いことをすれば、来世でも悪いことがある」ということを繰り返し教わります。「良いことをするとピンがもらえる」ということが無意識の中にあり、困っている人がいれば何とかして助けようとするというスリランカ人の行動に繋がっているように思います。

スリランカで良く聞く言葉が「ブドゥサラナイ」です。言葉の意味は“God bless you.”に似ていますが、スリランカは仏教徒が多い国なので「仏のご加護がありますように！」といったところでしょうか。誰かと会って話した後の別れ際や、電話を切る時などにこの言葉を使います。また、自分より目上の人に対しては、正座をして合掌し、合掌した手を地面につけ、おでこを手の上にのせて敬意を表します。言われた方は、その人の頭を撫でながら「ブドゥサラナイ」と言います。小さな子ども達も目上の人には、同じようにこの挨拶をします。



皆さん、最後まで読んでいただきありがとうございました！それでは、「බුදු සරණයි.(ブドゥサラナイ)」。

長崎県内で国際交流・協力を行う団体の紹介

長崎県内では、様々な国際交流・協力を行う団体が活動しています。今回は、長崎大学学生団体 STARs の活動について、STARs メンバーの長崎大学 多文化社会学部 2 年生 鈴木 翔さんに紹介していただきました。

皆さん、こんにちは。私たち、長崎大学学生団体 STARs（以下、STARs）は、長崎大学の学生が中心として集まり、難民や難民に係る社会的諸問題をテーマに活動をしている団体です。

2019 年、長崎において「WILL2LIVE 映画上映会」というロヒンギャ難民をテーマにした映画の上映イベントを開催するために、有志の学生たちが集まり、それを機に、STARs は設立されました。STARs の正式名称は、「Students Think Aloud for Refugees」です。つまり、「学生たちが、難民について思考・発話する」ということです。この名称の意の通り、約十数名の学生が集まり、難民について思考・発話しようと試みたことが団体設立の契機です。

私たちのこれまでの活動は次の 4 つに分類できます。①世界難民の日イベント（6 月 20 日）、②映画上映会、③勉強会、④大村入国管理センター（以下、大村入管）での面会活動です。①について、難民のご飯を作り、SNS での発信（2020）や「人権」や「犯罪」など様々なトピックでパネルディスカッション（2021）を開催しました。また、②について、上述した「WILL2LIVE 映画上映会（2021）」や外国人技能実習生をテーマにした「海辺の彼女たち上映会（2022）」を開催しました。③に関しては、難民と 1 つのトピックを掛け合わせた勉強会を行いました。例えば、難民と表象（映画作品を通して難民について考える勉強会）、職業及び児童労働、自殺問題、世界遺産などです。最後に、④ですが、これは STARs 内の有志メンバーが行ってきました。昨年の 9 月及び 12 月に大村入管を訪問し、面会活動を行いました。その他、当該施設の元被収容者と交流したりしてきました。

STARs は、今年 6 月 20 日の世界難民の日に向けて、イベントを企画しています。今年は、学内の学生や教職員を対象とし、難民又は移民の方にお話を伺ったり、難民問題に係る映画鑑賞を通して、意見交換をするイベントを計画しています。今年は「学生」に焦点を当てた活動を行っていくことを考えています。一人でも多くの学生に、「難民・難民問題に係る社会的諸問題」について知って頂き、一緒に考えていきたいと思っています。



WILL2LIVE 上映会終了後の
メンバー集合写真（2021）



長崎地裁における裁判に参加するメンバー



世界遺産と難民についての勉強会（2022）



Facebook



Instagram



Twitter



SNS やリーフレットでも STARs の活動を発信しています。興味がある方は、ぜひチェックしてみてください！

世界でキラリ★ JICA 海外協力隊



オラ！ コモエスタ？
¡Hola! ¿Cómo está?
やあ！ 元気ですか？
～愛にあふれた国、パラグアイ～

小田 智子（おだ ともこ）さん

【2017年（平成29年）4次隊 パラグアイ 音楽】

世界中で活躍する JICA 海外協力隊。2018年3月からパラグアイで音楽隊員として活動した小田さんにお話を聞きました！
笑顔がとっても素敵ですね♪



パラグアイ共和国は、南アメリカ中央南部にある共和制国家である。
首都はアスンシオン。
パラグアイの音楽は、民族音楽をルーツとして、長い歴史がある。



南米のほぼ真ん中に位置するパラグアイは、日本から一番遠い国です。アルゼンチンとの国境の街、エンカルナシオン市の市役所で活動しました。街の芸術文化センターに音楽教師として配属され、同僚とともに楽器を習いにきた生徒たちに「ドレミ」の読み方など音楽の基礎を教えていました。パラグアイの民族音楽・楽器（アルパ）には楽譜がなく、国内には楽器屋もほぼありません。耳で聞き取って演奏するため、みんな耳はとってもいいのですが、なかなか楽譜を読む機会がないのが現状です。

また、クラリネットを音楽教師や生徒に対しレッスンし、学校の先生と生徒で構成するオーケストラの支援も行いました。毎週、アルゼンチンからも国境を越えてクラリネットを学びに来てくれていたんですよ！最初の半年は、言葉が通じずコミュニケーションが取れなかったり、同僚との大きな価値観の違いに悩んで、自分の凝り固まった考え方を一から見つめ直す苦しい時期でした。ですが、意見をぶつけ合うことでお互いの意見を尊重できるようになり、「Tomoko がいうことは全てやるわ！」と言ってくれるまでになったんです！そこからは、毎日笑っていました♪

パラグアイの人々は、心がとても温かいです。ホームステイ先のママは「私たちはお金がなくても、とても幸せよ」といつも言っていました。日本のように便利な社会じゃないからこそ、心と心の繋がりをなによりも大切に、当たり前のように周りのみんなで助け合う精神。ゆったりとした時間が流れるパラグアイで、忘れていた大事な「人を想う心」を学びました。

皆さんも、日本の裏側の愛に溢れた国・パラグアイを是非知ってみてください！



パラグアイとアルゼンチンの生徒たち



クラリネットのレッスン



ホームステイ先の家族

長崎県外国人相談窓口より4月に着任した相談員をご紹介します！

皆さん、初めまして。令和4年4月1日から外国人相談窓口で相談員として働いている武立佳志子^{ぶたつよしこ}です。長崎生まれ、長崎育ちの「じげもん」ですが、留学をきっかけに約15年アメリカに住んでいました。

在米中はいくつかの街に住みました。その中で、ルイジアナ南部とテキサス州ヒューストンにはそれぞれ5年ほどいました。ルイジアナといえばニューオーリンズが観光地として有名で、毎年2月にはマルディグラというお祭りで沢山の人が訪れます。また、ルイジアナの食文化はアメリカでも独特で、ガンボと呼ばれるオクラの入った具沢山のスープや、ジャンバラヤと呼ばれるお米料理など、たくさん美味しいソウルフードが楽しめます。日本でもよく目にするタバスコは、ルイジアナの Avery Island という町で製造されているんですよ。

ヒューストンはアメリカで4番目に人口の多い大都会で、面積も長崎市の4倍以上あります。私の住んでいたところは NASA のジョンソン宇宙センターの近くで、昔のアポロ計画のミッションコントロールセンターや、当時まだ計画が行われていたシャトルのミッションコントロールセンターの中に入れてもらったこともあります。地理的にメキシコに近いこともあり、ラテンアメリカ系の移民は多いですが、アジア系の移民も多く、ダイバーシティに富む街です。ここでいろんな国から集まってきた人たちと仕事ができただことは貴重な経験でした。

私は相談員としては駆け出しで学ばなければいけないことが沢山あり、至らない点も多いかと思いますが、少しでも長崎で生活する外国人の方々の力になれるよう頑張りたいと思いますので、皆様よろしくお願いいたします。

ヒューストンにて、プロジェクトチームメンバーとの一枚。



在住外国人の皆さまへ 協会からのお知らせ

7月の弁護士による法律相談会

(共催：長崎県弁護士会)

長崎県にお住まいの外国人を対象に、弁護士による無料の法律相談会を開催します。秘密は絶対に守りますので、安心して、お気軽にご相談ください。周りにはいる外国人の方で相談したいという方がいらっしゃいましたら、ぜひお声かけください。

〈日時〉令和4年7月2日(土)、7月6日(水)、
7月9日(土)、7月13日(水)、7月16日(土)、
7月20日(水)、7月27日(水)、7月30日(土)
いずれも時間は、13:30～16:30まで。

〈場所〉長崎県外国人相談窓口
(長崎市出島町2-11 出島交流会館1階)

※電話による相談も受け付けます。ご予約の際に、その旨を担当者へお伝えください。

〈相談時間〉1人60分まで

〈内容〉婚姻・離婚・入国・在留・事件・事故・労働問題など

〈予約制〉事前にお電話またはE-mailで担当者までご予約をお願い致します。

●TEL：095-820-3377

●E-mail：soudan@nia.or.jp

●担当者：長崎県外国人相談窓口 武立・高橋

第14回～語り合おうin Nagasaki～

外国人による日本語弁論大会の出場者大募集！

〈日時〉令和4年10月16日(日) 13:30～16:00

〈会場〉国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
交流ラウンジ (B2F)

〈賞金〉最優秀賞5万円、第2位3万円、第3位2万円
未来賞1万円、その他参加賞などあり

〈応募締切〉令和4年8月31日(水)

〈主催〉外国人による日本語弁論大会実行委員会

(公財)長崎平和推進協会／(公財)長崎県国際交流協会

〈問合せ先〉(公財)長崎県国際交流協会

●TEL：095-823-3931

●E-mail：nia@nia.or.jp

※出場資格や参加申込については協会公式HPをご確認ください。



協会公式 HP



県内国際交流団体・協会からのお知らせ

国際理解セミナー「世界がもし100人の村だったら」

(主催：長与町国際交流協会)

世界を駆け巡ったメール『世界がもし100人の村だったら』を再話した著者、池田香代子さんをお呼びし、今なお解決されない世界の問題について、グローバルな視点から分かりやすくお話していただきます！参加費は無料です。

〈日時〉 令和4年7月23日(土) 13:30～15:00

〈場所〉 長与町公民館 大ホール

〈申込方法〉 TEL (095-801-5661) もしくはE-mail (kikaku@nagayo.jp) にて事前にお申込みください。

※新型コロナウイルス感染拡大により、講演会が延期となる可能性があります。

「多文化共生セミナー」(主催：長崎市国際課)

国際法務に精通した行政書士による講座を行います。事前申込不要・参加費無料です。県民の方はどなたでもご参加いただけます。直接会場へお越しください。

〈日時〉 ①令和4年7月14日(木) 14:30～15:30

テーマ「外国人の雇用(就職)と転職」

②令和4年9月8日(木) 14:30～15:30

テーマ「国際結婚と離婚」

〈場所〉 長崎ブリックホール3階 会議室1

(長崎市茂里町2番38号)

〈問合せ先〉 長崎市国際課 TEL (095-829-1113)

「国際交流の集い」

(主催：(公財)長崎平和推進協会 国際交流部会)

外国の方々と県民とが相互理解を深めるため、外国の方々を招いてお話していただきます。直接質問することもできるフレンドリーな集まりです。事前申込不要・参加費無料です。皆さん、ぜひご参加ください。

〈日時〉 令和4年7月9日(土) 10:00～11:30

令和4年9月10日(土) 10:00～11:30

〈場所〉 国立長崎原爆死没者追悼祈念館地下1F研究室

〈問合せ先〉 長崎平和推進協会 国際交流部会

担当：吉田

●TEL：095-839-2018

●E-mail：mimozamusume@lup.bbiq.jp

オンライン講演会「7か国語で話そう」

(主催：ヒッポファミリークラブ西日本)

英語や外国語に関心のある方

英語や外国語が話せるようになりたい方

どんな英語教育がいいか？とお考えの方

どんな人も、何歳からでも体験できる楽しい「ことば」の世界をお伝えします！

〈日時〉 令和4年7月24日(日) 10:00～11:30

令和4年9月17日(土) 10:00～11:30

〈開催形式〉 オンライン (Zoom)

〈申込方法〉 ヒッポファミリークラブ西日本のHPよりお申込みください。

学ぼう！遊ぼう！世界体験旅行！の参加者募集 (主催：(公財)長崎県国際交流協会)

小学生対象の楽しく遊びながら学ぶ、国際理解講座です。グループに分かれて各国(4～5カ国)のブースをまわります。先生の国の言葉や文化、習慣、遊びなどを教えてもらいましょう。どこの国の先生と会えるかは、当日のお楽しみ♪

〈日時〉 令和4年8月11日(木・祝) 13:00～15:00

〈場所〉 長崎県庁1F 大会議室B・C (長崎市尾上町3-1)

〈定員〉 小学生30名(先着順)

〈参加費〉 無料

〈持ってくるもの〉 マスク着用必須、筆記用具、水筒

〈同伴者〉 1名まで(マスク着用必須)

〈申込方法〉

右のQRコード(Googleフォーム)から申し込むことができます。

E-mailまたはFAXでお申込みご希望の方は、協会公式HPをご覧ください。



参加申込用
Googleフォーム



外国人支援事業を応援して下さる賛助会員を募集しています！

賛助会員として長崎在住外国人を応援しています！

安達株式会社

扇精光ホールディングス株式会社

ヤナセ産業株式会社

FROM ながさき協同組合

長崎県青果移出商業協同組合

年会費 個人会員：3,000円

法人会員：10,000円

※詳しくは、長崎県国際交流協会までお問合せください。